

説明さえすれば全てがわかる・・・。

校長 高田 晶子

1月6日（金）にPTA執行部の皆さんが、校内の花の植え替えを行ってくれました。季節の花を目にすると、マスク着用の日々ではありますが、表情に笑顔が戻ってきます。登下校時の正門や通路、昇降口が明るくなりました。本当にありがとうございました。



かれこれ17年前にベストセラーになった 養老孟司氏の著書「バカの壁」をご存知の方は多いと思います。先日読み返してみました。本書の中に **なんでも簡単に、説明さえすれば全てがわかるように思うのはどこがおかしい・・・説明したってわかることばかりじゃない。「ビデオを見たからわかる」「一生懸命サッカーを見たからサッカーがどういうものかわかる」・・・わかるというのはそういうものではない。**という一節があります。学習をしたという理由だけで、「わかっている」と思い込んでしまう勘違いをしているのではないか、と書かれていました。言葉による説明は、それだけで伝えられないこと、理解されないことがたくさんあるのが現実なのだと思います。一定の情報を得ただけで「わかっている」と思い込んでしまう。そこには、正解を求めて安心したいという人間の欲求があるからなのでしょう。情報があまたに溢れるこの社会の中で、正しいのではないかと情報を探すのは一苦労です。

では、実際に経験したことはどうでしょうか。「百聞は一見にしかず」という諺にもあるように、自分の目で触れて、見て、感じた経験からは、「わかっている」といえることも多くあるように思います。養老氏によれば、日本人には、本質的に真実は何か、事実は何か、と追求する癖が無いと書かれています。一方的な説明だけでなく、共に考える、一緒に考えるという作業が、身近にできる方法の一つなのかもしれません。

感染拡大「第3波」のニュースに、感染予防の油断できない日々が続きます。新しい生活様式に少しばかり慣れたかのように思っていたのですが、そう簡単に今までの生活を崩せるものではないということも感じます。これからの充実した生活を考えるには、まだ少し時間がかかりそうです。

今年も残すところ一ヶ月半となりました。模索する学校現場の教育活動も生徒の声を聴きながら、先生方の工夫により、例年にはない明るい穏やかな生活ができています。保護者の皆様には、三者面談にご協力いただきありがとうございました。1・2年生は担任との初対面での会話になった方も多くいたと思います。ご心配をおかけしました。対面形式の懇談ができ、担任にも優しい表情が満ちてきました。

今後の教育活動もどうぞよろしく願いいたします。